

# 文教福祉常任委員会会議記録

日 時 平成28年11月8日(火曜日)

午前10時 2分 開議

場 所 水戸市議会 第3委員会室

午前10時41分 散会

## 付託事件

- (1) 平成27年請願第1号, 平成27年請願第2号
- (2) 所管事務調査

## 1 本日の会議に付した事件

### (1) 請願審査

- ① 平成27年請願第1号 年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書の提出を求める請願
- ② 平成27年請願第2号 「県立学校の存続と高校の少人数学級実現を求める意見書提出」に関する請願

### (2) 報告事項

- ① 結婚ときめきプロジェクト「25歳の大同窓会」について (子ども課)

### (3) その他

## 2 出席委員(6名)

委員長	田 口 米 蔵 君	副委員長	堀 江 恵 子 君
委員	田 中 真 己 君	委員	木 本 信 太 郎 君
委員	高 倉 富 士 男 君	委員	袴 塚 孝 雄 君

## 3 欠席委員(なし)

## 4 委員外議員出席者(なし)

## 5 説明のため出席した者の職, 氏名

副市長	秋 葉 宗 志 君		
保健福祉部長 兼福祉事務所 所長	根 本 一 夫 君	保健福祉部 参事	長 須 賀 良 明 君
福祉事務所 参事兼 子ども課長	柴 崎 佳 子 君	保健福祉部 参事兼 国保年金課長	川 津 英 臣 君
保健福祉部 参事兼保健 センター所長	大 曾 根 明 子 君	福祉総務課長	小 山 忠 君
生活福祉課長	斉 藤 博 之 君	障害福祉課長	平 澤 健 一 君
高齢福祉課長	谷 津 好 行 君	介護保険課長	荻 沼 学 君

保健所準備課長	小林秀一郎君		
消防長	清水修君	消防次長	大津孝司君
消防本部技監	綿引信明君	消防本部参事兼消防総務課長	小泉直紀君
消防本部参事兼消防救助課長	大越唯行君	北消防署長	鈴木豊君
南消防署長	石川隆君	火災予防課長	大内康弘君
救急課長	石田宏一君		
教育長	本多清峰君	教育部長	七字裕二君
教育委員会事務局教育部参事	今川宗男君	教育委員会事務局教育部参事兼学校教育課長	鈴木秀樹君
教育委員会事務局教育部参事兼中央図書館長	五上義隆君	総合教育研究所長	小野司寿男君
教育企画課長	三宅修君	幼児教育課長	鈴木功君
学校施設課長	埴敏之君	生涯学習課長	大澤秀樹君
歴史文化財課長	白石嘉亮君	総合教育研究所副所長	小川佐栄子君
内原中央公民館長	龍田理君		
6 事務局職員出席者			
書記	嘉成将大君	書記	大内しおり君

午前10時 2分 開議

○田口委員長 おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから文教福祉委員会を開会いたします。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、請願審査を行います。

当委員会に付託され、継続審査となっております平成27年請願第1号「年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書の提出を求める請願及び平成27年請願第2号「県立学校の存続と高校の少人数学級実現を求める意見書提出」に関する請願につきましては、本日のところは継続審査といたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 御異議なしと認め、継続審査といたします。

以上で、請願審査を終わります。

次に、報告事項の説明に入ります。

結婚ときめきプロジェクト「25歳の大同窓会」について、執行部から説明願います。

柴崎参事兼子ども課長。

○柴崎福祉事務所参事兼子ども課長 おはようございます。

それでは、結婚ときめきプロジェクト「25歳の大同窓会」につきまして、子ども課提出資料により御説明申し上げます。

まず、目的でございますが、未婚化、晩婚化などによる少子化の進行に対応するため、25歳の若者を対象に結婚や子育て等について考える機会や出会いの場の提供を行う同窓会形式のイベントを行いまして、結婚に対して前向きな機運の醸成を図り、婚姻数及び出生数の増加を目指すものでございます。

あわせまして、この同窓会で帰郷した出身者にしごとやまちをPRすることによりまして、水戸の魅力を再認識いただく機会としていただき、Uターン等による移住の増を図るとともに、市内在住者に市外同窓生からの刺激による、新しい風を吹き込むことによる地域の活性化を目指すものでございます。

2の主催は、水戸市でございますが、企画運営につきましては業務委託により実施してまいります。

3の開催日時は、年末12月30日金曜日の午後3時から午後5時30分でございます。

4の場所は、ホテルレイクビュー水戸にて開催を予定いたしております。

対象者でございますが、市内の中学校などを卒業、または現在市内に住む25歳といたしまして、平成3年4月2日から平成4年4月1日までに生まれた学年を対象といたします。

6の定員は、先着で400名。

7の参加費は、飲食に係る費用として5,000円をいただく予定になっております。

8の内容につきましては、現在、業務委託事業者を通し、同窓会の対象者による実行委員会を立ち上げまして、当日のプログラム等を企画していただいております。具体的な内容は、今後決定してまいります。盛り込む内容といたしまして、次の3つ、1つ目が交際や結婚につながる出会いを演出するもの、2つ目が結婚に対して前向きなイメージを醸成するもの、3つ目が出展ブース等で水戸のまち、ひと、しごとなどを

PRするものを入れていただくこととしております。

9のその他といたしまして、この同窓会の周知と結婚への機運を高めるため、結婚ときめきプロジェクトのプレイベントを3つ実施したところでございます。あわせて御報告いたします。

1つ目が9月25日、水戸まちなかフェスティバルにおきまして、今年7月に県内のウエディング事業者等が連携し、結婚の魅力を発信するため結成されました茨城ウエディング協議会様との共催により、ウエディングファッションショーや模擬結婚式、パネル展示などを実施いたしました。

2つ目が10月30日の水戸黄門漫遊マラソンにおきまして、こちらも茨城ウエディング協議会様との共催により、のぼり旗やウエディングドレスを着てのハイタッチによるランナー応援隊を結成して応援したところでございます。

3つ目がオセロウイークの最終日、11月6日でございますが、オセロde交流会と題しまして、20歳から30歳代の独身男女を募集しまして、オセロ対局などで交流を深める出会いイベントを開催いたしました。

説明は以上となりますが、結婚やUターンなど、すぐに成果を出すことは難しいテーマでありますけれども、これらのイベントなどを通して、若い世代に水戸に生まれてよかった、住んでよかったと感じていただけるように、このプロジェクトに積極的に取り組んでまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○**田口委員長** それでは、委員より御質問等がございましたら、発言願います。

高倉委員。

○**高倉委員** 今回の事業については、今晚婚であるとか、本当にそういう方がふえていらっしゃるということで、そういう方を支援していくという意味では非常に大切なことなんじゃないかなと思うんですが、ちょっと2点ほど聞きたいんですが、まず水戸市が自治体単独でこういった事業を行うメリットと申しますか、もう既に茨城県では、いばらき出会いサポートセンターなどが婚活の支援を先行してやっていたらっしゃって、非常に実績を上げていらっしゃるということで、自治体によっては、そういうところと共催してやっているような例も見られるんですが、今回、水戸市単独でやる目的というかメリットを再度お聞きしたいのと、あと、今回対象者が25歳ということですが、その理由ですね。実は、30代、40代ぐらいの方でやはり結婚を希望されているんだけどなかなか出会いがないと、そういった方も非常に多くいらっしゃると思うんです。そういった方への支援というのは、今回考えなかったのか、なぜ25歳を対象としたのかということについて、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○**田口委員長** 柴崎参事兼子ども課長。

○**柴崎福祉事務所参事兼子ども課長** ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、結婚ときめきプロジェクトがなぜ始動したのかというそもそものところの御説明をさせていただきたいと考えますが、このプロジェクトは、昨年度水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定する過程で、市の若手職員を中心として行いました政策提案型のワークショップにより発案されたものでございまして、この中で少子化対策を担当いたします子ども課が大同窓会という提案を実現するような形で、今回予算化した事業を実施しているというところがまずございます。

単独で行うということに関しましては、確かに結婚を主目的としたイベントではございますが、ターゲットが25歳ということでまだまだ結婚に対する意識が余りない方、現実的でない方、逆にもう既に結婚、子育てをしている方々もいらっしゃるという中で、市全体で機運を高めるといようなことを、結婚を前面に出すのではなく、25歳のそれぞれの立場で結婚というものに前向きなイメージを持っていただき、また、水戸の魅力の水戸として発信するきっかけにしたいといようなことが目的で行ったものでございます。

それと、25歳という年齢設定でございますが、未婚化、晩婚化による少子化の進行に対応するためには、早いうちから、20代のうちに結婚ですとか出産といものを意識づけしていくことが必要であろうとい考えと、それから、成人して5年といある意味節目の年でありますことから、これまでの生活等を見詰め直すよいタイミングで、ほかのいろいろな生活を実践している同窓生からのいろいろな刺激を受けるといようなことで、ひょっとすると転職、Uターンといようなことですとか、新たな出会いで結婚に結びつくといようなこともあるかといようなことで考えたところでございます。

○田口委員長 高倉委員。

○高倉委員 わかりました。結婚の支援だけではなくて、いろんなUターンであるとか水戸市に戻ってきていただくといような、そういったことも含めての25歳の設定なんだといことなんですね。それは非常に評価しますが、結婚ときめきプロジェクトとい大きなテーマでありますので、やはり先ほど申しましたけれども、やはり30代とか40代とかそういう方の出会いの場をつくっていくといこともこれから非常に大事だと思うんです。ですので、今回初めての事業なのでどういった成果が上がっていくのか、ちょっと見守りたいと思うんですが、その辺も十分これからの取り組みとしては踏まえていただきたいなど、やはり水戸を支えていただいている、そういった方もいらっしゃるわけですから、そこにも目を向けていく必要があるんじゃないかなといことだけ申し上げておきたいと思います。

○田口委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 一言だけ申し上げておきます。

25歳といことで早いか遅いかといのは別問題として、25歳前に結婚した方で子どもを育てていて大変だよとい方もいれば、楽しいよとい方もいるんだといふうに思います。ですから、結婚についての確な情報が得られれば結婚に結びつき、また、子育てにつながると、こういうふうに思っていますんで、ぜひこれは続けていただきたい。そして、やっぱり30歳前後、それから35歳、最後かなと思ふような年齢、こういったところをどうするのか。今、高倉委員さんもおっしゃいましたけれども、いばらき出会いサポートセンターも今成果が上がっているといことですが、始めたころは大したことなかったんですよ。ですから、そういう意味では、やったからにはやっぱり継続して、そして、いかに成果を上げるかといことに結びついていかないと、非常にやっぱり市民の血税をいただいて多少なりとも応援していくと、こういうことでしょうから、ぜひそういった計画をきちんとやっていただきたい。

それから、Uターンについてなんですけど、子ども課の問題ではないので答弁は結構ですけど、Uターンさせるといことは、いわゆるしごとの提供をどうするのかといことだと思ふんですよ。水戸市の場合には、まち・ひと・しごとの創生の中でも、しごとの提供の仕方といものも随分論議はしたんですが、結果的には形にならないで終わってしまったといのが現状だと思ふんです。水戸に工業団地をつくりたくても、

いわゆる工業団地化するような場所がないとか、一応目的としては工業団地、新たな企業の誘致とかということはあるんだけど、今、土地があいているところというのは東部工業団地一部と水戸西流通センターに倒産もしくは撤退したところの用地がちょっとあいていると、こういった状況で、出てきたくても出てこれない。こういう現状があるかと思うんです。

ですから、Uターンまで促して何とかこの事業をとということになるとすれば、関係各課との連携を深めながら、今日は秋葉副市長さんもお見えでございますけれども、いわゆる水戸市全体として、しごとの醸成をどうしていくのかと、今度めぶきフィナンシャルグループということで、常陽銀行さんも東京に行かれてしまうと、こういうようなことで水戸の企業として、いわゆる魅力ある企業がどうなのかということになったときに非常に厳しい状況がある。こういったところも十分配慮しながら、Uターン現象、そして、人口増加策、または子育て支援、こういったことでしっかり計画を立てておやりになっていただきたいという意見だけ申し上げておきます。答弁は結構です。

**○田口委員長** 田中委員。

**○田中委員** 25歳の同窓会ということで、初めての取り組みということですので、成功をおさめるように見守っていきたくて聞いておりましたけれども、もしわかれば参考までにお聞かせいただきたいんですけども、今の年間の出生数は大体2,400人前後かなと思うんですけども、平成3年当時がどうだったかちょっと今わかりませんが、定員400人ということだと相当な割合でいらしていただきたいという。水戸市内にお住まいの方もということですので、もっとふえるのかどうかわかりませんが、とにかくどのぐらいの方を対象としていて、例えば市外や県外にいらっしゃる方にも御通知差し上げるといことになるんだろうかと思いますが、その辺どういうふうに周知されるのかなというあたりとか、もうすぐ12月ですから、もうされているのかもしれないんですけども、独身の方限定でもないということでしょうから、その辺、成功裏におさめるための今の取り組み状況をお聞きしたいと思います。

それから、晩婚化というふうに今一般的に言われていますけれども、水戸市では例えば平均の初婚の年齢ということになるんでしょうか。何歳ぐらいで結婚をされているというような状況であるのか。今後、今ほかの方からも25歳に限らずというお話もありましたが、その辺が最初の取り組みとしては、やった結果どうなのかという検証のポイントになっていくのかなというふうにも思うので、おわかりであればその辺を教えてくださいたいと思います。

**○田口委員長** 柴崎参事兼子ども課長。

**○柴崎福祉事務所参事兼子ども課長** 御質問にお答えいたします。

まず、対象者の数でございますが、今回は水戸市の住民基本台帳に登録をされているこの学年の方に対して、既にはがきでもって発送させていただいたんですが、こちらの件数は2,726件ございました。この中には、当然に水戸市の中学校などを卒業されて市外に出ている方もいらっしゃるのので、こちらについては、市としては把握できない部分でございますので、これは同窓会を組織した中でいろいろなSNSなどの発信ですとか、友達づてで声をかけていただいて、市外の方に広く呼びかけるというようなことで周知しております。もちろん水戸市の「広報みと」ですとかホームページ、あるいはフェイスブックなどでも積極的に発信をしておりますが、同窓生のネットワークの活用というのが最も効果的かと考えているところでござい



とやったわけではないので、今、署長さんのお話のように、急ぐ余りということもあったと思います。

再発防止にぜひ取り組んでいただきたいと思うんですが、私、消防庁ではこういう事例をどういうふうに全国に発信しているかというのを調べてみましたところ、救急業務実施時における交通事故防止の徹底についてという通知がありまして、つまり、いろんな危険な現場にも行きますし、交通事故の現場だとかいろんな救急現場があるので、相当あるんだなということを思いました。救急車が交通事故の当事者となる事案だとか、現場に到着した際に傷病者を負傷させるという事案が連続して発生したということで、救急業務への重大な影響を生じさせるとともに、国民の信頼を損なうので再発防止を図っていかねばならないということで、平成27年6月1日付で発せられている通知で、そこに警防活動時等における安全管理マニュアル改訂版というのが出ていまして、例えば、当たり前ですけれども、現場到着したときは、他の通行車両との衝突、接触等のおそれのない安全な位置を選定して駐停車するとか、通行車両や歩行者に注意するとかということで、今回の場合はお宅に行った事例ですけれども、このマニュアルですと、例えば国道左側に停車した救急車で本部と無線で交信中、トラックに追突されて隊員が負傷したとか、中には隊員が亡くなる例もありますし、現場到着時に雨でぬれていたステップで滑って負傷した隊員がいるとか、いろんな例がたくさんあって、本当に日々大変なところでやっていらっしゃるんだなというふうに思いましたし、その点は敬意を表したいと思うんですが、今回のような事故防止の対策として例えばこういうマニュアルは出ていますけれども、日々訓練の中でいろんなことが想定されると思うんですけれども、そういう部分も踏まえた訓練を当然やっていらっしゃるだろうと思うんですけれども、その辺の取り組み状況をもうちょっとお示しいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

○田口委員長 鈴木北消防署長。

○鈴木北消防署長 ただいまの質問にお答えいたします。

日ごろから交通事故を含めたけが等があってはならないということで、安全会議を定期的に開きまして、今言った事例というものを踏まえて検討はさせていただいています。その中に当然ながら、訓練をしながら安全対策というものを取り入れておるところでございます。

今回は現場が確認できたということと、間口が広いということで、ふだんならとまって案内人から情報を聴取して対応するところでございますが、今回心肺停止ということで、どうしてもそっちのほうを優先してしまったということございましたので、今後ないように、これを踏まえてしっかり対応していきたいと思えます。

以上でございます。

○田口委員長 ほかにございませんか。

よろしいですか。ないようでございますので、この件については終わります。

次に、その他に入ります。

委員から何かございましたら、発言願います。

袴塚委員。

○袴塚委員 すみません、何もないようですから1点だけ。

まず1つは、この間、教育委員会の中で、ちょっと私は案内をもらっておいて行けなかったんですが、水



戸市内の先生方の研究発表会がございましたよね、総研で。モデル事業かなんかの発表会があったように思うんですが。

○田口委員長 最近ですか。

○袴塚委員 8月か9月にありましたよね。ここで何か水戸市の特徴的な事業内容とかそういうのがあったのか。

それから、何か目標としているものの成果が出ているのかどうか、この辺について、ちょっとお聞かせいただきたい。

○田口委員長 小野総合教育研究所長。

○小野総合教育研究所長 袴塚委員の御質問にお答えいたします。

恐らく教育研究発表会というものの件だと思いますけれども、それぞれのいわゆる教科ごとに教育研究会の中に教育研究部というのがございまして、その中で、それぞれの学校でこれまで実践してきたものをまとめたり、それから、学校でのいわゆる研究の目標の成果等をまとめたものをそれぞれの教科で発表していただくものでございます。それぞれ教研の指導主事が年間を通じて指導をしながら、学校とともに進めているものでございまして、それぞれの教科にいろいろなものがありますが、御質問で今お話があったのは、その中でどういったものを求めているかということでございますか。

やはり学校はどの教科も大切なものですので、全部の教科に関して、それぞれの指導主事が担当しながら学習指導要領に基づいた教育課程に基づいたものを実践できる。そして、新しいいろいろな教育実践、そういったものを発表する場として実践しております。

○田口委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 要は先生方の教育現場のモデル事業、先進事業だと思うんです。そうでないと言ったらおかしいんですけども、目的はそういった学校に波及的にこういうやり方がいいよということの一つの事例として挙げていくという、そういう研究だというふうに思うんです。そうすると、それを実際に、今度はほかの学校に波及させるための何らかの手だてというのはおやりになっているのか、それともどんなふうになっているのか、その辺についてだけ。

○田口委員長 小野総合教育研究所長。

○小野総合教育研究所長 それぞれの学校を計画訪問という形で定期的に訪問いたします。その時点でいろいろな教科で課題等が出てまいりますけれども、そのときにも先進的な研究ですとか発表については紹介をしながら、一緒に進めているところでございます。

○田口委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 いずれにしても、せっかくプロジェクトを組んで、指導主事の先生方も1年間かかわって研究成果を発表するという事業ですから、ぜひこれが全校に——やっぱりこういうやり方が一つの形ではないかと思うんですよ。それをいかに学校の実態に応じて応用していくかと、こういうことが大事だというふうに思いますんで、研究の発表会だけではなくて、ぜひ研究成果を実際の教育の現場の中にどのように盛り込んでいくかということがこの研究発表会の課題だと思うんですね。ですから、ぜひそういったところで頑張っていただきたいというふうに思います。

それから、消防行政でありますけれども、今、消防団員の欠員が全国的に問われていて、この間もテレビでもやっていたけれども、団員の確保というのが非常に難しくなっておりますよと、こういうふうなことが報道されておりました。

水戸市の分団でもなかなか分団員の補充——20名とか18名とかそれぞれ分団によって定数が違うんだというふうに思いますけれども、この辺についてどのような対応というか対策というか、そういうものをされているのか、おわりの範囲の中で結構でございますので、せっかく委員会に御出席をいただいているので、ちょっとお聞かせをいただければありがたいなというふうに思います。

○田口委員長 大越参事兼消防救助課長。

○大越消防本部参事兼消防救助課長 ただいまの消防団員の加入促進の状況等についての御質問でございますが、まず、消防団は地域に根差した消防団でございますので、まず、欠員にあつては各消防団の分団長に補充をしていただくということが前提でございます。なおかつ、ただいま消防団協力事業所表示制度、こういう制度がございますので、そういった制度を活用して団員の加入促進に努めております。

おかげさまで水戸市は現在564名の定数に対しまして550名の加入がございまして、充足率にしますと98%に近い加入状況になってございます。

以上でございます。

○田口委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 昔は消防団というと自営業者がその地域にたくさんいて、それで、地域活動の一環として消防団活動というものがやられていたわけでありましてけれども、最近なかなか自営も非常に環境が厳しい状況にあつて自営業者が減少していると、こういうようなことだと思うんですね。

今、大越課長さんのほうから、幸いなことにということで御答弁をいただいた98%の充足率がありますよということでもありますけれども、これからいわゆる企業の中でも地元企業の中で、人が出せるということであれば、企業から推薦していただいて充足率を高めていくとか、いろんな方策を考えていかなければならないんだというふうに思うんです。そのときに企業がいわゆる人を出せる状況なのか、出せない状況なのか、もしくは例えばいざ災害となれば、仕事であっても出ていくということが原則なのか、それとも義務なのかよくわかりませんが、やっぱりなかなか分団員がそろわずに、ごくわずかな人数で出動すると、こういう事例もあるわけです。特にこれから冬になると非常に火災も多くなると、こういう現象がありますので、企業の協力に対する考え方、例えばそういう企業が何らかの形で表彰の栄を受けるとか、それから、何らかの形で水戸市の広報の中でお褒めの言葉をいただくとか、そういうふうな部分も含めたりして、やっぱり充足率の向上というのは図っていかねばならないというふうに思うんですが、この辺については何か企業との連携、もしくは地元自治会との連携というのは何か秘策があるのでしょうか。

○田口委員長 大越参事兼消防救助課長。

○大越消防本部参事兼消防救助課長 ただいまの企業との連携という御質問でございますが、やはり水戸市もサラリーマン団員さんは非常に多くございますので、企業主の方々に対しまして御通知をさせていただきますと、消防団の必要性、それと消防団員というのは、特に地方公務員でこういう活動をしているというような御案内をさせていただきますと、非常事態の場合にはその業務よりも水戸市のために災害活動に優先し

ていただきたいと、そういったお願いをしてございます。なおかつ、あとは自治会でございますが、それは消防団を通してその辺の重要性をきちんと説いていただいております、対応させていただいております。

以上でございます。

○田口委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 ありがとうございます。

地域には自主防災組織があったり、いろんな形で防災にかかわる考え方というのがあるというふうに思うんです。ですから、ぜひそういうところとの連携を深めながら消防団活動のさらなる充実、発展に努めていただきたい。今、充足率の話を申し上げましたけれども、恐らく周辺部は相当充足率が高いんだと思うんですね。やっぱり特に市街の充足率というのが非常に厳しい状況がある。

そこで、先ほど申しましたように企業との連携と、こういうものも必要なんではないか。中心部においては、やっぱり分団活動が必要になる。例えばいざ火災になったときに、密集地はいわゆる延焼率の高い場所になるわけですから、ぜひそういったところについても御配慮いただいて、分団活動の活性化に努めていただきたいと、このように思っています。

それから、これは答弁は結構ですが、南消防署の問題について、再三私のほうで申し上げているわけでありましてけれども、もうぼちぼち南消防署をどうするんだと、こういうふうな検討を内部でおやりになっていただいていると、このようには認識しておりますが、いずれにしても新庁舎の中に消防本部が入ることになってはいるわけでありましてけれども、消防本部自体が消火活動をするということではなくて、各分団、もしくは各消防署、これが先兵隊になって出動していくということでございますので、南消防署の充実、大規模改造、こういったことは大変重要な課題だと。南消防署が解決しない限りほかの出張所等についても新たな出張所のあり方、そういったことにも着手できないではないかと、このように思っています。

出張所を見てみますと、相当老朽化が進んでしまったり、それから、女性消防士にこれからある程度は活躍をいただかなければならないと、こういう時代を迎えたときに、そういった方々の居場所が確保されていないと、こういうのも出張所の今の状況ではないかというふうに思っていますので、できるだけ早い時期に計画をお立ていただいて、そして、まず、第一関門の南消防署の大規模改造、改築、こういったものに向けてしっかりと計画を立てておやりになっていただきたいと、このことだけ申し上げておきます。

以上です。

○田口委員長 ほかにございませんか。

よろしいですか。

それでは、この件について終わります。

それでは、以上をもちまして本日の文教福祉委員会を散会いたします。

御苦労さまでした。

午前10時41分 散会